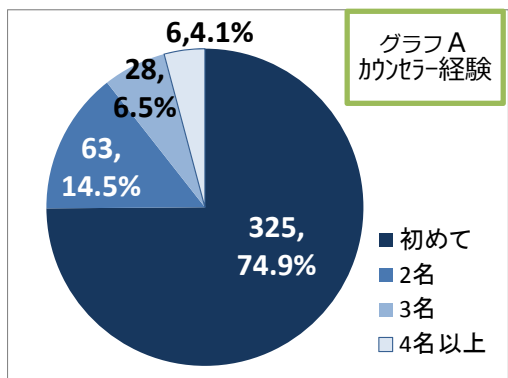


# カウンセラーアンケート調査結果

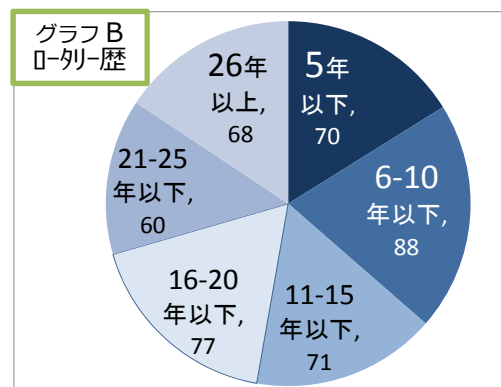
1. 調査時期 2017年4月（4月10日～5月10日）
2. 調査対象 2016年6月～2017年3月までの終了奨学生のカウンセラー567名
3. 有効回答数 434名（76.5%）
4. 調査方法 専用URLからWEB入力（世話クラブ経由でカウンセラーに通知）

## 7割以上が初めてのカウンセラー

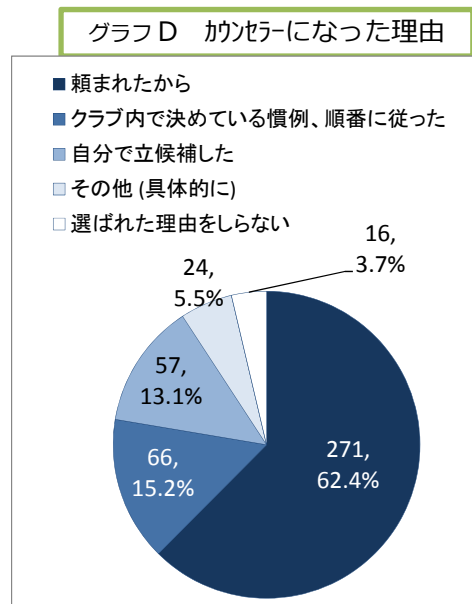
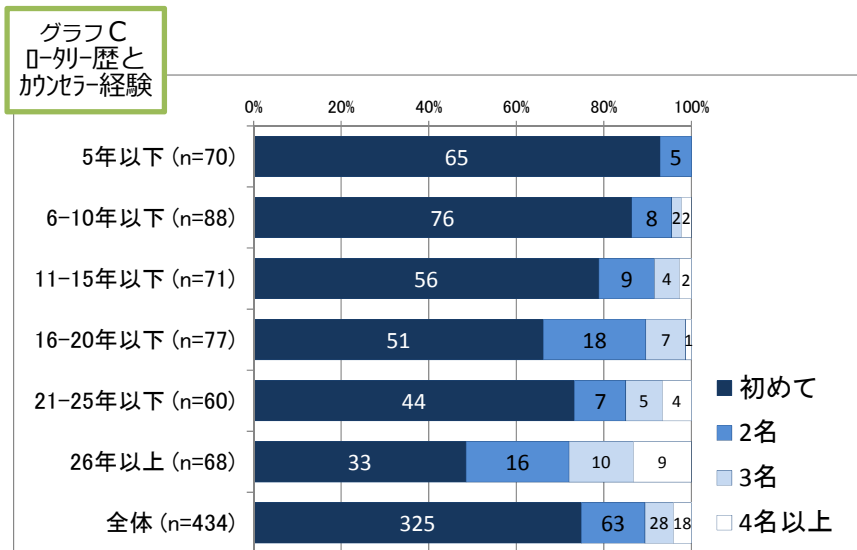


米山奨学生を「初めて世話をする」と回答した方が325名（74.9%）、「2名の世話経験がある」という方が63名（14.5%）、「3名」が28名（6.5%）、「4名以上」が6名（4.1%）だった。（グラフA）

カウンセラーのロータリー歴は様々だが（グラフB）、当然のことながらロータリー歴の長い方がカウンセラー経験は多い（グラフC）。ロータリー歴5年以下の方は9割以上が初めての方、一方でロータリー歴26年以上カウンセラーは、半数以上が「2名以上世話をしたことがある」と回答した。



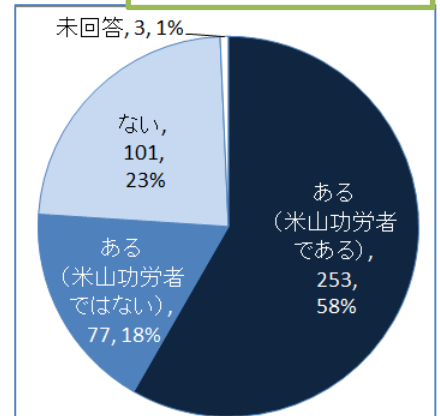
カウンセラーになった理由については、「頼まれたから」が最も多く6割を超えた。次に「クラブ内で決めている慣例、順番に従った」と「自分で立候補した」が13%、なかには「選ばれた理由を知らない」という回答も。「その他」の回答は「退会されたので」が多く、「女性だから」や「クラブ米山委員長だから」があった。中には「自分が若いときアメリカに留学していて苦労したので」というものもあり、留学生の身になって世話をしてくださるカウンセラーの姿が想像できる。（グラフD）



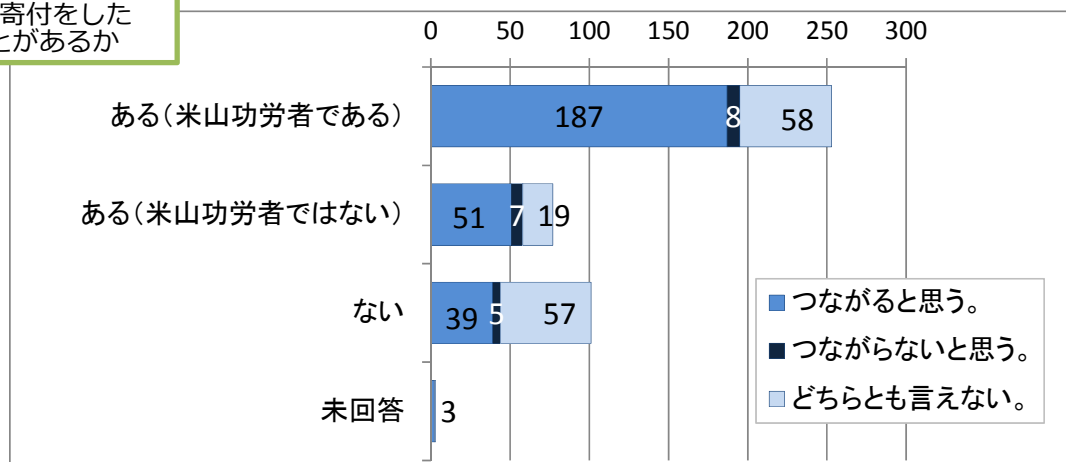
## 7割以上が「特別寄付をしたことがある」

**特別寄付をしたことがあるか**という問いには、7割以上が「ある」と答え、そのうち3分の2以上が米山功労者だった。(グラフE)  
 特別寄付をしたことが「ない」と答えたのは2割ほどの101名だった。  
 「カウンセラー経験が特別寄付につながる」と回答したのは277名(63.8%)だった。その理由として最も多かったのは「自然と理解が深まる」「寄付が有効に使われているのが分かる」という意見で、ほかには「文化や習慣の違う他国で勉学、研究に一生懸命頑張っていることに感動した」という意見があった。「つながらないと思う」と回答したのは20名(4.6%)だった。(グラフF)

グラフE  
特別寄付をしたことがあるか

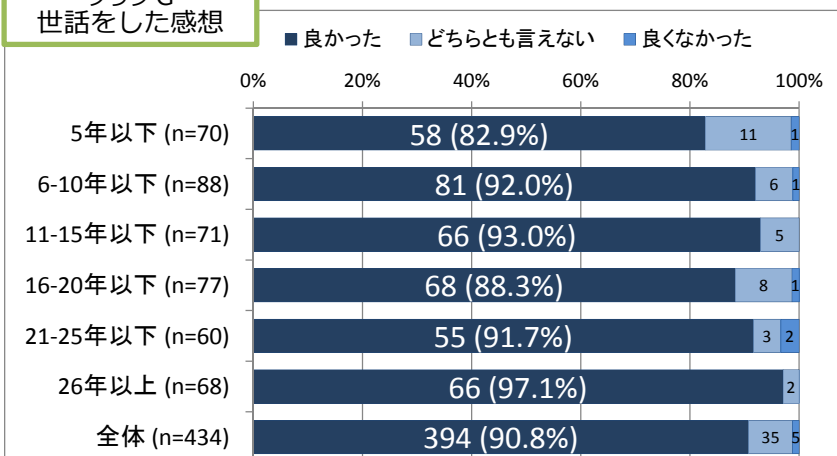


グラフF  
特別寄付をしたことがあるか



## 9割以上がカウンセラーをして「良かった」と回答

グラフG  
世話をした感想



**奨学生を世話した感想**という問いには394名(90.8%)が「良かった」と回答した。ロータリー歴別に見ると、26年以上の方の満足度が最も高く、5年以下の方の満足度が低くなっている。(グラフG)

### 【良かった理由】

- ◇目的を持った学生が一生懸命に勉強し、日本を理解したいとの思いに感動した。
- ◇自分の知らない国の学生と交流

することにより、相手とその国の文化・習慣を知ることができたから。

- ◇母国へ貢献できる、素直で優秀な学生を支援し、接することは、自分自身の糧になると感じている。
- ◇奨学生を通じ、その家族とカウンセラー家族との交流が、国際親善、世界平和へと結びつくと思う。

◇研究テーマが再生医療で、私の興味と一致していて、共に学び合えた。  
 ◇将来の両国の友好の絆になってもらえるに人材に育ってくれると思うとわくわくする。  
 ◇今回の奨学生は、奨学金に対して身を以て日頃から感謝の意を持ち続けていたことを感じた。また、「ロータリー奨学生は卒業しても、奉仕の心からは卒業しない」という言葉を聞き、ロータリー米山奨学生の名に恥じない立派な社会人になると希望が持てた。  
 ◇米山記念奨学会の意義を強く感じる事ができたこと、小さいクラブで社会奉仕、国際奉仕など奉仕に対する貢献を感じにくい環境にありながら、奉仕活動を実感することができたから。担当学生だけでなく他の奨学生とも親しくなれた。 ほか

**【どちらとも言えない理由】**

◇学生が忙しく、交流が浅かった。  
 ◇受け入れ学生の国がいつも同じ。  
 ◇国民性の違いを痛感した。  
 ◇金銭的な負担が多く感じた。 ほか

**【良くなかった】**

◇中国、韓国からの留学生に奨学金は要らないと感じたから。  
 ◇担当した学生は米山奨学生としての事前の心構えができていなかった。 ほか  
 カウンセラーには、この奨学事業が人材育成事業であることを認識して、奨学生と接していただく必要があるだろう。

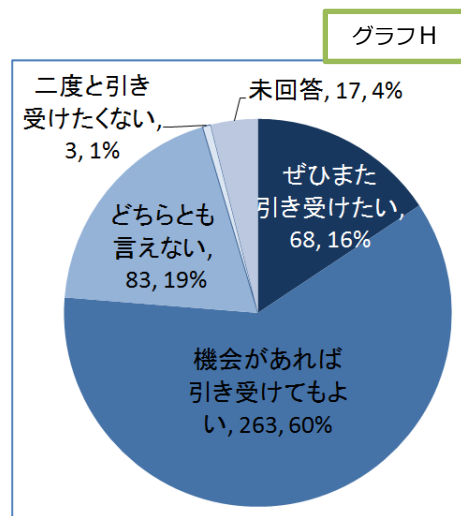
**今後のカウンセラーの引き受け**については、「ぜひまた引き受けたい」「機会があれば引き受けてもよい」が合わせて76%となった。(グラフH) 一方で、「二度と引き受けたくない」との回答も1%あった。

**【ぜひまた引き受けたい理由】**

◇国際親善に役立つような人材を育てたい。  
 ◇次世代を担う奨学生との交流は、クラブにとっても意義深く、また受け入れることで活気が出る。  
 ◇引き受けた奨学生はみな優秀で、前回の奨学生は10年以上連絡があり、結婚の仲人など今も「お父さん」として交流し、やりがいを感じている。 ほか

**【機会があれば引き受けてもよい理由】**

◇子供たちに国際交流に関する刺激になった。  
 ◇接すること自体に喜びがあった。成長する姿を見るのは嬉しい。その人の親までが喜ぶ姿を見て感動した。幸せのお手伝いができたことを喜んでいる。  
 ◇ロータリー活動にふさわしい奉仕活動と思える  
 ◇奨学生の母国に訪問した際、向こうの両親との懇談は有意義だった  
 ◇将来の活躍を期待出来る前向きな若者と交流することは、自分自身の励みになる。 ほか



【どちらとも言えない理由】

- ◇未経験の会員にもっと体験して欲しいから。
- ◇仕事との時間調整が難しかった。
- ◇貴重な経験だったが、私の年齢を考えると難しい。                      ほか

【二度と引き受けたくない理由】

◇時間を作るのが困難                      ほか

カウンセラーは米山記念奨学事業の成功の鍵を握っている。国際交流の最前線の役割を担っているのだが、接する時間がないというのは残念。奨学生にとって貴重なロータリーや日本を理解する機会を奪っている。カウンセラーをお願いする際は右のような方をお願いしていただきたい。

- ◇奨学生に対応する時間を持てる方
- ◇奨学生に対する思いやりを持てる方
- ◇異文化への理解があり、国際交流に関心がある方
- ◇カウンセラーの役割を楽しめる方

**カウンセラーになって、どういうときに負担を感じたか**という問いには、「負担を感じることはなかった」が最も多かった。交流の時間を作るのが負担という回答も1割強あり、交流の時間こそがこの事業の醍醐味であるのに残念。「その他」には「送り向かい」「卓話への随行」「就職相談」「米山関係の会合への出席」などが負担としてあげられた。

(表I)

表I		
負担を感じることがなかった	288	66.4%
奨学生と交流する時間を作るとき	55	12.7%
その他	36	8.3%
奨学生に社会ルールやマナーの注意を行ったとき	33	7.6%
個人的な支出をしたとき	5	1.2%
未回答	17	3.9%
<b>総計</b>	<b>434</b>	<b>100.0%</b>

**「カウンセラーとして困ったときにだれに相談したか**」という問い(複数回答)については、クラブ会員とカウンセラー経験者が多く、次いで地区米山奨学委員長となったが、「とくに必要がなかったので、相談しなかった」という回答が最も多かった。「その他」はクラブ事務局という回答が多く、奨学生が異性の場合は身近な同性に確認するのは有効であろう。(表J)

表J		
とくに必要がなかったので、相談しなかった	197	45.4%
クラブ会員	119	27.4%
カウンセラー経験者	113	26.0%
地区米山奨学委員長	50	11.5%
その他(具体的に)	27	6.2%
米山奨学会事務局	13	3.0%
相談できる人がいなかったため、相談しなかった	7	1.6%
ガバナー	1	0.2%

**世話クラブ補助費の使途**

世話クラブを引き受けていただくに際し、年4万円の**補助費**をクラブにお送りしているが、その使途としては、奨学生のクラブや地区の行事参加費用が最も多く、次いで例会の食事代となった。「使われ方を知らない」「世話クラブ補助費の存在を知らない」という回答もあり、補助費についても周知いただく必要があると分かった。(表K)

表K		
クラブ主催や地区主催の行事参加費用	189	43.5%
奨学生の例会出席時の食事代	102	23.5%
カウンセラーが奨学生と交流するために使った費用	47	10.8%
使われ方は知らない	46	10.6%
世話クラブ補助費の存在を知らない	22	5.1%
その他(具体的に)	24	5.5%
未回答	4	0.9%
<b>総計</b>	<b>434</b>	<b>100.0%</b>

また、**自己負担額**については、最も多いのが「年間1万円以上3万円未満」で、次いで「年間3万円以上」、いずれも3割以上となり、「個人的な負担はない」と回答したのは2割に満たなかった。カウンセラーは時間的にも金銭的にも負担を強いられている。自己負担の内容としては、交通費や飲食代が多い。旅費や宿泊代、プレゼントや餞別、記念品などもカウンセラーが個人で負担しているケースがある。カウンセラーによって大きく差を出さないためにも、クラブの事業としてご負担いただけるようお願いする必要があるだろう。(表L)

表L

年間1万円以上3万円未満	151	34.8%
年間3万円以上	143	32.9%
個人的な負担はない	85	19.6%
年間1万円未満	51	11.8%
未回答	4	0.9%
総計	434	100.0%

## 奨学生との交流

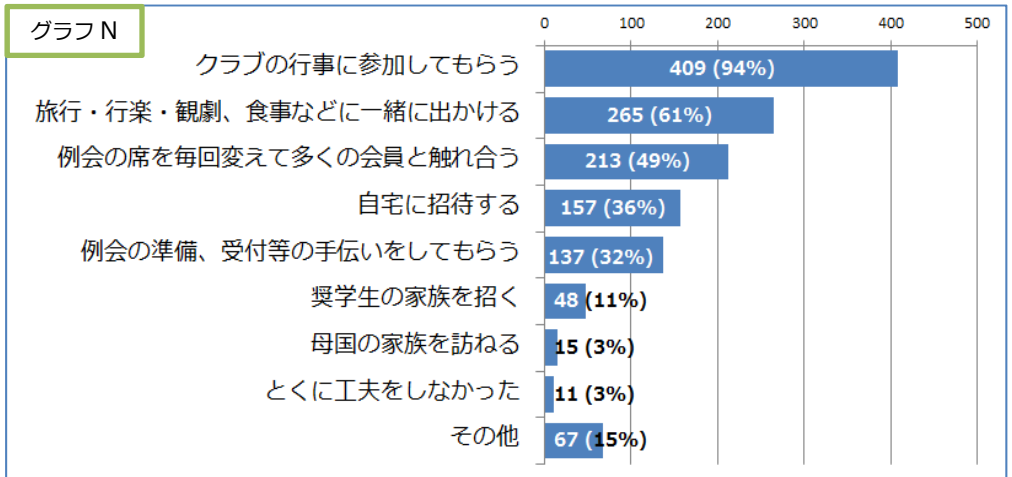
**奨学生の卓話の感想**（複数回答）は、「一生懸命に話していて好感が持てた」「将来、日本と母国の架け橋になる活躍をしてくれるような、奨学事業の意義を感じさせる内容だった。」など、奨学生の卓話は概ね好評。また、「その他」の意見としては、「他クラブへの出張卓話も積極的に参加してくれた」や「日本語能力の高さに驚かされた」という高い評価もあるものの、「歴史問題にも触れて複雑な気持ちになった」や「夢と現実の誤差がある様感じた」というマイナスの意見もあった。残念なことに、奨学生卓話の当日の例会にカウンセラーが欠席した例もあり、奨学生に心細い思いをさせないためにも、卓話までに奨学生がクラブに溶け込むように配慮していただきたい。(表M)

表M

一生懸命に話していて好感が持てた。	327	75.3%
将来、日本と母国の架け橋になる活躍をしてくれるような、奨学事業の意義を感じさせる内容だった。	310	71.4%
奨学生自身や奨学生の出身地等に興味ももてる内容だった	240	55.3%
米山記念奨学事業に寄付をしたいという気持ちにつながった	81	18.7%
その他	17	3.9%
専門的な研究内容に終始し、卓話の効果があまりなかった	14	3.2%
日本語能力に問題があり、言っていることがよく分からなかった	7	1.6%
卓話を実施していない	4	0.9%

## 交流のための工夫

**交流のために工夫したことはなんですか**（複数回答可）という問いには、最も多いのは「クラブの行事に参加してもらう」で次いで「旅行・行楽・観劇、食事などと一緒に出かけ」だった。(グラフN)



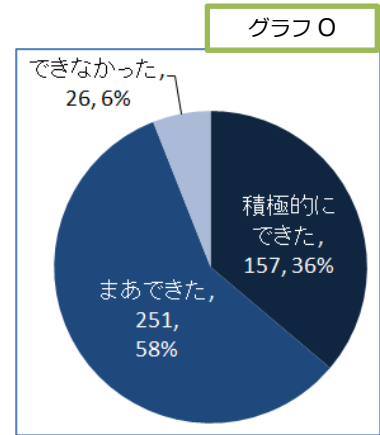
「自宅に招待する」と回答したのは3割と少ない。「特に工夫をしなかった」と言う方がいる反面「母国の家族を訪ねる」という回答もあり、カウンセラーによって奨学生との交流に差がある。

「その他」の回答は、

- ◇海外の友好クラブとの交流で通訳を引き受けてもらった
- ◇奨学生の結婚式に参加     ◇奨学生の子供にプレゼント
- ◇自分の会社見学     ◇地元の祭りに招待
- ◇カウンセラーの家族と交流
- ◇ローターアクトへの入会     ◇ほぼ毎週例会に出席 などがあつた。

**奨学生と他会員との交流の橋渡し役ができたか**という問いには、「できた」と答えた方が9割を超えた。そのうち「積極的にできた」との回答が4割弱。できなかった理由は「奨学生が積極的でなかった」「交流の時間が限られていた」「カウンセラーとしての努力不足」などがあげられた。

(グラフO)



**カウンセラーから見た世話クラブでの奨学生の様子**は、「ほとんどの会員と仲良くなった」が6割近かったが、「奨学金をもらい

に来るだけで会員と交流する姿勢が見られなかった」という回答もあり、カウンセラーが橋渡し役をすることはもちろんだが、奨学生にも交流の重要性を伝え、奨学期間中にロータリアンとの絆を作る努力をしていただく必要がある。(表P)

表P

ほとんどの会員と仲良くなった	259	59.7%
一部の会員とはよく交流できていた	162	37.3%
奨学金をもらいに来るだけで、会員と交流する姿勢が見られなかった	10	2.3%
奨学金終了までどうしていいかわからない様子だった	3	0.7%
総計	434	100.0%

## 奨学生の例会出席

**奨学生の例会出席**は確約書では「月一回以上」の出席としているが、毎週出席という回答もある。(グラフQ)

**奨学金の渡し方**については、例会中に全会員の前で渡す場合が8割で、奨学会事務局でもそうしてくださいとお願いしている。中には、現金の授受に抵抗があるなどの理由から、振込にしたり、後で渡したりしているところもあるようだ。(表R)

カウンセラーハンドブックには「奨学金を気持ち良く渡し、渡される環境づくり」が重要だと記している。奨学生が自信をもって米山奨学生であると公言し、奨学期間終了後もそれを誇りとするような環境づくりをしていただきたい。

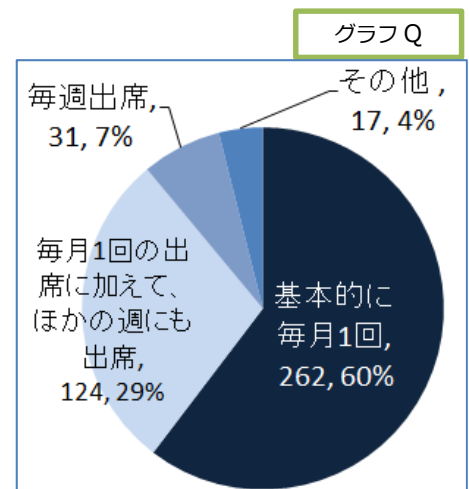


表 R

毎回、例会中に全会員の前で渡した	360	82.9%
例会前後に奨学生に渡し、全会員の前で渡したことはない	53	12.2%
初回のみ、紹介を兼ねて全会員の前で渡し、以後は例会前や終了後に渡した	16	3.7%
最後の例会のみ、全会員の前で渡した	2	0.5%
その他	3	0.7%
総計	434	100.0%

## 奨学生からの相談

**奨学生の相談内容**（複数回答）という問いには、「将来について」が最も多い。「相談されたことはない」という回答も多かった。

「その他」としては、奨学金延長の相談、ロータリークラブの組織や活動内容についての相談が挙げられた。また、卓話内容やスピーチの添削、日本文化や慶弔についての相談など、カウンセラーが良い相談相手となっている様子が伺えた。

（表 S）

表 S

将来について（進学、就職等）	223	51.4%
相談されたことがない	113	26.0%
学業について	86	19.8%
人間関係について	49	11.3%
プライベートの悩み （病気、恋愛、結婚や出産など）	47	10.8%
手続き等（宿舍や保証人、在留資格）	43	9.9%
経済的問題	40	9.2%
その他	51	11.8%

**奨学生からの相談にどのように対応したか**（複数回答）については、プライバシーに関わることもあるからか、「1対1で相談にのり解決した」という回答が多く、次いで「クラブ会員を含めて解決した」が多かった。「相談はなかった」という回答も多く、カウンセラーは奨学生にとって気軽に何でも相談が出来る存在であってほしいと思う。（表 T）

表 T

1対1で相談にのり、解決した	171	39.4%
クラブ会員を含めて解決した	129	29.7%
相談はなかった	109	25.1%
相談にはのったが、解決はしなかった	40	9.2%
家族を含めて解決した	38	8.8%
学校に相談するように伝えた	29	6.7%
関係者や専門家を紹介した	28	6.5%
忙しかったので、結局相談に のることができなかった	2	0.5%
その他	34	7.8%

表U

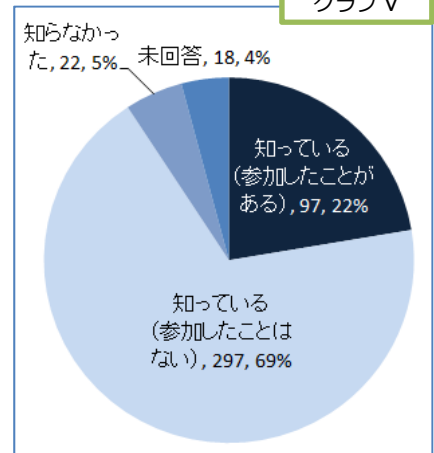
必要性を感じなかったので、接点をもたなかった	169	38.9%
オリエンテーションや終了式などの地区行事に教員が招待されていたので、そこで話をした	132	30.4%
電話または直接会って話をした	56	12.9%
例会に招待した	50	11.5%
連絡先がわからなかったので、連絡できなかった	38	8.8%
指導教官の卓話を実施した	20	4.6%
その他	60	13.8%

**指導教官との関わり**（複数回答）については、「必要性を感じなかったので、接点をもたなかった」が残念ながら最も多い。クラブの例会や地区行事に参加いただくことで、ロータリーや米山奨学事業への理解も深まり、次回、申込のときに優秀な学生の推薦が期待できる。その上、奨学生の行事出席に対しても協力や理解が期待できる。指導教官が事業の意義に共感して寄付をくださった例もある。（表U）

### 米山奨学生の選考について

**地区役員・奨学委員会関係者が書類審査および面接選考**していることについて、知っているとは回答したのは全体の9割だったが、実際に参加したことあると答えたのはそのうち2割ほどだった。知らなかったと答えた方が22名いらしたが、ロータリアンが選考し育てる事業であることはお世話いただく前に知っていただく必要があるだろう。（グラフV）

グラフV



**実際にカウンセラーとして奨学生と接して、米山奨学生として支援すべき学生の要件は何だと思うか**、という問い（複数回答）に対しては、「人柄や豊かな人間性、礼儀正しさ」が最も多く、ついで、「ロータリー運動や活動への関心・理解と参加意欲」を選んだ方が多かった。経済的困窮度は今の選考基準にはないが、76名の方が重要だとした。（グラフW）

この「コミュニケーション能力」とは「的確に情報を伝達・共有し、他者を理解し尊重しながら自分の意見を伝えることができる対人関係能力」を指す。また、「その他」としては、「日本との友好意識」や「世界平和への姿勢」などがあり、中には「日本の歴史、立場を理解しようとする姿勢」というのもあった。この事業は留学生を親日家・知日家に育てるプログラムであることをご理解いただく必要がある。

グラフW

